

2021 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募決定のお知らせ

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストが公募した「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成について、計 4 件の企画が採択されました。選考委員についても併せてご紹介いたします。

2021 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」 助成公募選考委員（あいうえお順）

- 田中 優（未来バンク理事長）
- 野島靖智（株式会社すいてん ディレクター）
- 古瀬繁範（地球と未来の環境基金理事長）
- マエキタミヤコ（サステナ代表）
- 宮田秀明（摂南大学名誉教授／環境科学、食品衛生学、公衆衛生学）
- 安田節子（食政策センター ビジョン 21 主宰人）
- 山田敏郎（金沢大学名誉教授／化学工学、蜂群崩壊症候群研究）
- 星川 淳（アクト・ビヨンド・トラスト代表理事）

ため池や自然止水域におけるネオニコチノイド系農薬の汚染状況と絶滅危惧水生昆虫の生息状況の相関調査 III（分野: 調査・研究）

苅部 治紀

本研究は、ため池などの止水域でのネオニコチノイド系農薬の汚染実態を、二年間の助成調査により調査してきたもので、1)北海道から沖縄まで国内各地で検出され、2)絶滅危惧種の絶滅産地ではとくに高濃度の検出が見られ、現存産地でも多くの地点で検出があり、3)その汚染は地下水系に及んでいる、など深刻な実態を明らかにしつつある。最終年度では、未調査地域の調査、高濃度汚染地と隣接地の比較、農薬の季節動態など、新たな切り口によりさらに研究を深化させる。

ネオニコチノイド系農薬の使用が魚類の生理機能に及ぼす影響把握（分野: 調査・研究）

角田 出

- ・魚類は脊椎動物に属し、その機能への正負影響はほぼ哺乳類のそれと等しい。
- ・魚類をモニタリング生物として用いることで、ネオニコチノイド系農薬の浸漬と経口曝露の両方の影響を同生物種で比較可能である。
- ・ネオニコチノイド系と同左以外の農薬の浸漬と経口曝露が魚類の各種機能に及ぼす影響を把握する。
- ・室内実験で判明した生理機能への影響が水田や同周辺水域で生じているか否かを、水中農薬濃度とともに調べ、ネオニコチノイド系農薬の生態影響を明確化する。

**継世代影響から捉えるネオニコチノイド系農薬のシグナル毒性と神経前駆細胞・グリアの局所活動
(分野:調査・研究)**

神戸大学大学院 農学研究科 動物分子形態学分野 星研究室(申請者:星 信彦)

環境化学物質の継世代影響が懸念されている。「そのメカニズムを科学的に明らかにする」ことは喫緊の課題である。中でも、発達神経毒性は極めて重要な問題である。これまで申請者はネオニコチノイド系農薬(NN)の神経毒性作用を生きた動物(生体)で実証し、かつ、2020年度の本助成金で継世代影響の一端を明らかにした。本研究では、脳機能攪乱の生体直接観察および多次元メタボローム解析により NN の継世代影響を掘り下げ、その実態解明と脳機能攪乱を早期に検出できる新規バイオマーカーの同定を試みる。

#最近の農薬知ろうよ 連続講座！ (分野:広報・社会訴求)

くまもとのタネと食を守る会(申請者:間 澄子)

ネオニコチノイドやグリホサートなど、長期の微量摂取問題が指摘されている農薬がホームセンター等で何の規制もなく売られ、子ども達の口にも入っている。消費者は農薬を選ぶ知識がなく、ネオニコチノイドやグリホサートが残留した農産物は問題だと思う消費者ですら、それと知らず購入し、家庭や家庭菜園で使っている、もしくは学校や公園など身近なところで使われている現状がある。ネオニコチノイドやグリホサートを使った農産物を見分けられる消費者になるためにも、農薬が農業の現場でどのように使われているかを知り、ホームセンター等で売られているネオニコチノイドやグリホサートとリンクして理解できるよう、ワークショップを含めた連続講座を開催する。